

24 尾瀬沼・尾瀬ヶ原 (桧枝岐村)



環 境

尾瀬は福島、新潟、群馬の3県が接する標高1400mの高層湿原で、周囲は2000m級の山々に囲まれた地域である。初夏のミズバショウは余りにも有名で、多くのハイカーが訪れるわが国屈指の観光地となっている。四季折々に湿原植物が花を開き、また東北最高峰の燧ヶ岳を始め尾瀬ヶ原の西側には至仏山がそびえ、原生林と高山植物のおりなす景観は、ここに生息する鳥類の種類の多さを物語り、一度は訪れたい所である。

季 節

特別保護地域として守られてきているだけに、原生林は太古の趣をそのままに今に残しているし、尾瀬ヶ原の景観は時代の感覚を麻痺させてしまう程である。福島県からのルートは桧枝岐村の御池から沼山峠を越えて尾瀬沼に向かうコースと、御池から裏ひうちに入り、上田代から横田代を通り三条ヶ滝を経て、尾瀬ヶ原の見晴から尾瀬沼に登るコースがあ

るが、このコースは足の丈夫な人にお勧めしたい。

一般的には沼山峠から大江湿原を経て尾瀬沼にでるコースが無難である。沼山峠付近はアオモリトドマツやコメツガの原生林で、センダイムシクイ、ヒガラなどのさえずりが迎えてくれる。朝早くならアカハラのさえずりも賑やかであり、また余りにも近くで鳴くウグイスに驚いたりすることもある。メボソムシクイ、ウソの声も聞かれる。

やがて大江湿原の木道にでる。ミズバショウ、ショウジョウバカマなどの花も5月に入ると雪の解けた所から咲きだしてくる。渡りを終えたホオアカ、ジュウイチのさえずりや飛翔も見られるところで、木道から落ちないように気をつける必要がある。

尾瀬沼の近くになると、カルガモが湿原の中の川から急に飛び出したりして驚ろかされることもある。尾瀬沼は標高1665mの高所にあり、東西2km、南北1.2kmの広さがある。沼にはカルガモの他マガモやカイツブリ、オシドリも生息しており、晴れた日には対岸に燧ヶ岳が望まれる。

湖畔には尾瀬沼ビジターセンターがあり、いろい

る尾瀬の勉強をするのも楽しい。

イワツバメ、キセキレイの飛翔を見ながら沼のへりを沼尻（ぬじり）へと向かう針葉樹林の中からはシジュウカラ、コゲラの声、また細いヒガラのさえずりも聞かれる。メボソムシクイとウソの鳴き声には特徴があり、他の鳥の鳴き声とは容易に聞き分けることができる。時折ホシガラスのしわがれた声にびっくりしたりするのも深山ならではの趣である。沼尻はやや開けた所で沼の西端に位置する。ここには休憩所があり、燧ヶ岳が目前に迫って見える。イワツバメ、キセキレイなどの他、沼にはカルガモの遊泳が見られる。

白砂湿原を過ぎ、白砂峠を越える辺りからクロジの特徴のあるさえずりホーイ、チヨチヨが聞かれる。その他コマドリ、オオルリなどのさえずりも多く聞かれる。尾瀬ヶ原まではブナ林の中の長い下りになるが、目の前の木道にコルリが不意に姿を見せることもあり楽しいところである。メボソムシクイの4拍子の鳴き声を聞きながらやがて尾瀬ヶ原の東端に出る。

下田代十字路を真っ直ぐ進めば群馬県側の至仏山方面。ここは右折をして温泉小屋に向かう。早朝ならアカハラの合唱も楽しめる。オオジシギのズビー

ヤク、ズビーヤク、ガガガガというけたたましい鳴き声を聞かれるのも湿原ならではの楽しみである。この辺りはヨシ、オゼアザミ、レンゲツツジなどの草木や灌木も多く、モズの姿を見ることもできる。温泉小屋を経由して三条ヶ滝にでる。ここは足場が悪いので要注意である。滝の落ちる轟音に負けじとミソサザイの甲高いさえずりが続く。

兎田代、天神田代と裏燧のコースも長い道程であるが、高山ならではの野鳥の声を楽しみながら、十分に時間を取って歩いてみたいところである。健脚の方は燧ヶ岳に登ってみるのも良い。ここでは高山鳥のコマドリ、コルリ、キクイタダキなどを存分に楽しめる。

交通

桧枝岐村から会津バスで御池の駐車場に入る。ここから沼山峠まではバスがある。マイカーの方もシーズン中の土曜日、日曜日は御池から沼山峠まではバス利用となるので注意をして欲しい。

